

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【強み・弱み】

国語については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、全国平均と大きくちがいはありませんでした。また、「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」は、全国の結果よりも非常に高い結果であり、国語の学習への興味が高いことがわかりました。今後、**教育課程のカリキュラムマネジメントを実施し、生徒が表現する機会を十分に設定することで、社会で生きて働く表現力の育成をすすめていきます。**

数学については、「図形」と「データの活用」の問題の正答率が全国平均と比べて、大きく下回っており、課題となっています。生徒質問紙の結果からも、「数学の勉強は好きですか」の質問では、好きではないが50%以上をこえており、苦手意識が高いことがわかりました。小学校からの苦手意識もあるため、今後さらに**学習面での小中連携を密にし、小中で数学の基礎・基本の力を身につけさせていきます。**

英語については、「話すこと」について、初めての方式でのテストということもあり、正答率が低い結果となりました。「英語の勉強は好きですか」「英語の勉強は大切だと思いますか」は、全国の結果よりも非常に高い結果であり、英語の学習への興味が高いことがわかりました。今後、**授業や家庭学習の中で、英会話を行う機会を増やし、社会に出てからも使用できる英語力を身につけさせていきます。**

生徒質問紙調査においては、「人の役に立つ人間になりたい」とする生徒が昨年度に引き続き多くあり、自分だけでなく、周りの人々を大切にしようとする意識が高いことが分かります。また、「自分には、良いところがありますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答の割合が昨年度の結果より高く、ここ数年本校の課題として挙げてきた自己肯定感の向上がみられます。ただ、「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定的な回答の割合が低い傾向が昨年度に引き続きみられることから、身近なところでの自己肯定感は向上したものの、自分に自信が持てずにいる人や目標を持てずにいる人が多くいることがわかりました。「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話しあったりする活動に取り組んでいますか」という調査項目について、肯定的な回答の割合が全国の割合よりも高く、学級で様々な話し合い活動が十分に行われており、課題を解決しようとする力が身につけてきていることが分かります。しかし、ここ数年間、家庭でのスマホなどを、長時間のゲームやSNS、動画視聴などに利用する生徒が多く、家庭学習の時間を十分にとれていないことは、引き続きの課題となっています。

【さらに伸ばしたいところ】 数字は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合（%）

質 問	田上中	全国
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.7	94.6
朝食を毎日食べていますか	91.2	91.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.2	87.3
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	91.2	77.9
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話しあったりする活動に取り組んでいますか	91.2	86.3

【指導の充実に向けて】

◇深い学びにつながる授業づくり

- ・話し合い活動の充実
- ・授業改善に係る校内研究
- ・カリキュラムマネジメントの実施

<主体的に学習する態度の育成・表現する力の育成>

<ICT (iPad) の活用や学ぶことの手応えを次に活かさせる授業実践>

<社会で生きて働く力の育成>

◇思いやりの心を育む集団づくり

- ・学び合い学習の推進
- ・学級活動・生徒会活動の充実

<多様な価値観や感じ方の共有による多様性の尊重できる仲間づくり>

<主体的・実践的な態度の育成>

◇地域を担う人材を育成できる学校づくり

- ・ボランティア活動の推進

<自主的・自発的な活動による自信の獲得と自尊感情の醸成>